

中学2年生のJさんが、地域のスーパーマーケットに職場体験に来た。

Jさん：「おはようございます。今日は職場体験、よろしくお願いします。」

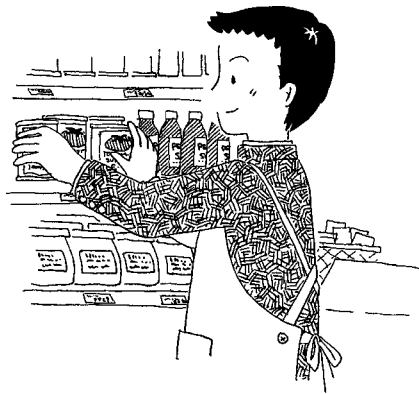
店長：「おはようございます。とても元気なあいさつで、やる気を感じていいですね。ところで、Jさんは何でスーパーマーケットを選んだのですか？」

Jさん：「はい。私の家も、近所の人みんなここで買い物をしています。このスーパーマーケットは、私たちの生活になくってはならないものですから、前からこの仕事に興味をもっていました。それでここにお願いしました。」

店長：「そうですか。それでは、自分からここに来たいと思ったんだね。それはいいことだ。それでは、棚に商品を並べることから始めましょう。」

(しっかりと仕事に取り組むJさん)

店長：「一生懸命働いているね。えらいぞ。」



各教科、道徳、特別活動、総合的な学習、進路指導などで、様々な体験的な学習が行われています。子供たちの豊かな人間性を高めていくためには、体験的な学習の中で、充実感を得る機会を多くもたせることが効果的です。

一人一人の子供が、大人からほめられる（感謝される）場を設定する

体験的な学習では、地域の方やゲストティーチャーなど、学校外の大人の方と接する機会が増えます。学習活動を大人からほめられることは、子供にとって大きな自信になり、学習意欲の向上につながります。大人からほめてもらう場を増やすためにも、事前に準備をすることが大切です。

- ① 学習のポイントを明確にする、あいさつをしっかりとするなどの事前指導を行う。
- ② 地域の方やゲストティーチャーなどとの事前の打ち合わせの際に、態度、努力している点などを具体的にほめてもらえるようお願いする。同時に、注意すべき点は遠慮なく注意してもらい、その後学校に連絡してもらおうようお願いする。

ねらいを明確にし、子供の関心が高まる教材を工夫する

体験的な学習は幅が広く多様ですから、子供の関心が高まる教材を扱い、学習に対する興味・関心を伸ばすよい機会になります。そこで、学習者である子供を中心に考えた教材を工夫することが大切です。

また、体験的な学習のねらいを明確にした上で、教材を工夫することも重要です。子供たちの活動は見られるが、学習の効果が上がらないということがないように留意する必要があります。